

おきなわ・海歩き 第4回 潮間帯という場所

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

海と陸の境目はどこでしょう？

地図の上では、びしっと線が引かれていますね。最近では人工護岸が多くて、本当に海と陸とがはっきり分けられた場所が増えました。しかし、本来の自然海岸はどうなっているのでしょうか。

海には潮の満ち引きがあります。これは太陽や月の引力に海水が引っぱられるため、日本のあたりではふつう1日に2回ずつ、満ち潮と干き潮が繰り返されます。干満の差（潮位差）や時刻は毎日少しずつ変わり、1ヶ月に2回のサイクルで大潮という時期を迎えます。大潮はちょうど満月と新月の頃に当たり、このとき潮位の差が、沖縄では水深にして2メートル以上と最も大きくなります。海と陸の境目は、常に移動しているのです。

そして、海でこのような干満の変化がある範囲を潮間帯と呼びます。ここが、海歩きの本舞台です！ 1日に2回も潮が満ちたり引いたりするので、潮間帯はとても環境の変化が大きい場所です。それでも、そんな変化に適応した独特の暮らしを見せてくれる生き物たちがたくさんいます。

潮間帯の最も上の部分は、大潮の満潮時に海水をかぶるだけで、ふだんは乾いて時々しぶきがかかるくらい。サンゴ礁地形でいえばノッチの上の方ですが、こんな場所だけに住む海の生き物がいます。ノッチの岩の小さな窪みをよく見ると、1センチほどの巻貝が何種類も見つかるでしょう。ちいさなとげの列が並ぶ薄ピンク色のコンペイトウガイ（写真1）。お菓子の金平糖みたいです。白っぽくて丸いのはキバアマガイ（写真2）。ちょっと失礼して岩からはがすと、裏側の殻の口に牙のような2本のイボがあり、また貝殻の内側にはちゃんと水分をためている



写真1 コンペイトウガイ

ことがわかります。こういう場所に住む貝は、水なしでは生きられないけれど水の中が嫌い！ 試しに海水を入れた水槽の中に入れてやると、あっという間に壁をはい上がって水の外へ脱走します。だからといって完全に乾いた陸上や淡水では生活できない、海の変わり者です。

ノッチの下の、緑の海藻が生える岩場の辺りには、沖縄のクバ笠のような形のカサガイや、小判形で真ん中に瓦を並べたようなヒザラガイの仲間が見られます。おもしろいことに、彼らは潮に浸かっているときは自分の「家」とも呼べる決まった場所において、潮が引いた食事の時間に散歩に出て藻類をかじり、またもとの場所に戻ります。だから、その「家」の部分には藻類が生えてこず、お散歩中は貝殻の形にぴたりと合った空き地がぽっかりと空くこととなります（写真3）。

もう少し海の方に歩いて、潮だまりができるあたりの岩の上を注意して見ると、数センチのイボイボの物体を発見するでしょう。一見気持ち悪いこの生き物、殻を持たない巻貝の仲間、イソアワモチといひます（写真4）。あなど



写真2 キバアマガイ



写真3 カサガイが散歩に出るところ



写真4 イソアワモチ

るなかれ、イボイボの先には眼点と呼ばれる光を感じるセンサーがあります。さわってみると、弾力があって結構かたい。空気呼吸ができるので、干上がった岩の上でも大丈夫。岩と保護色ですが、目が慣れるといくつも見つかるでしょう。踏まないように気をつけて！

さて、サンゴ礁とは違って、砂浜の潮間帯にもまた独特の生き物がいます。方言でカーミグッというのはスナホリガニの仲間。2センチくらいの卵形の生き物で、波打ち際をちよろちよろ泳ぎ回り、すばやく後ろ向きに砂の中に潜ります。また、きめの細かい砂浜にはナミノコガイという二枚貝が住んでいます。ふつう二枚貝というのはじっと動かないものですが、これはユニークな貝で、「波の子」という名の通りになんと波乗りをします！ 潮が引いているときは干上がった砂の中でじっとしていますが、潮が満ちて自分のいる場所が波をかぶるようになると、寄せる波に合わせて自分から砂の上にぴょんと出てきます。そして、水管という2本の管と平たい三角形の足を伸ばして波に乗り、砂の上を滑ります



写真5 ナミノコガイのサーフィン

(写真5)。波が引くと、瞬く間に砂に潜り、次の波が来るのを待ちます。観察していると、大きな波が来たときにそこら中のナミノコガイが一斉に砂の中から飛び出して波乗りをし、また潜る、というのを繰り返しているようです。なぜこんなことをするのでしょう。彼らは水管から海水の中に漂う餌を吸い込み、こし取って食べるという食事の方法を取りますので、波乗りは、ひょっとしたらお食事タイムなのかもしれません。

潮間帯という海と陸の境目には、まだまだたくさんのユニークな暮らしをする生き物がいます。岩場や砂浜などの環境によって、また潮間帯の上の方か下の方かによって、彼らは全く異なる暮らしをしています。潮が引いたら、ぜひ生き物の暮らしの変化を探しに歩いてみてください。